

## 豚の分娩管理(その5) —分娩前後の疾患2—

香取農業共済組合  
嘱託 山本 輝次

### 4.便秘症

豚の便秘症は、他の動物に比べて多い疾病です。大部分は大腸便秘ですが、稀に小腸便秘も見られます。便秘は、腸の弛緩や腸の蠕動運動の低下によって腸の内容物が腸管内に停滞すると、排糞が遅れます。この結果、糞が秘結(糞が硬くなること)して、排糞がまったく認められなくなります。

#### 1) 原因

- (1) 環境の急変やストレスは、本病が発生する誘因となります。
- (2) 老齢や飼料の急変、過食および繊維不足の飼料の給与は本病が発生する大きな原因となります。
- (3) 熱性疾患(熱射病や産褥熱、豚丹毒、オーエスキー病、アクチノバチラス病等の呼吸器疾患)や中毒(南天中毒や食塩中毒など)は副交感神経が障害されるために、排糞反射が抑制されることによって便秘になります。
- (4) 妊娠末期になると、妊娠子宮に腸管が圧迫されるため、便秘になることが多くなります。
- (5) 放牧場や広い豚房で自由に運動していた母豚をストールや分娩舎に移動すると、運動不足から便秘の原因となります。特に初産分娩豚で多発傾向にあります。
- (6) 飲水不足や飼料不足は、消化機能や腸蠕動が減退するため便秘の原因となります。
- (7) 脚弱や腰痠は本病を併発します。
- (8) 腸閉塞や腸捻転、腸重積および直腸の狭窄は便秘症の原因となります。

#### 2) 症状

元気・活力は消失し、食欲は不振または廃絶します。さらに、排糞量は少なく秘結します。また、腹部を圧迫すると硬く、膨満感があり疼痛を訴えます。体温は平熱か若干低体温となります。しかし、夏季に便秘になると腸管内の異常発酵と熱の放散ができなくなり、呼吸速迫と自家中毒を起こし体温は上昇します。

#### 3) 予防および治療

##### i: 予防

- (1) 粗繊維に富んだ良質の飼料を給与してください。
- (2) 水は自由飲水させ、ブッシャーやウォーターカップを定期的に点検してください。
- (3) ストールや分娩舎に長時間閉じ込めておくと、運動不足から便秘になりやすいので、排泄した糞を観察して秘結するようであれば、時々分娩舎やストールから出して運動させてください。

##### ii: 治療

- (1) 塩酸メトクロプラミド(プリンペラン)を10mlかメチル硫酸ネオスチグミン5mlを筋肉注射してください。
- (2) 微温湯3~4ℓの石鹼水かグリセリンを使って浣腸をしてください(妊娠豚や分娩末期の母豚は流産や早産の原因となります)。
- (3) 整腸剤や硫酸マグネシウムおよび人工カルルス塩などの塩類下剤の強制経口投与も効果があります。



